

プレスリリース

令和5年8月14日  
国立研究開発法人 水産研究・教育機構  
一般社団法人マリノフォーラム21  
山田水産株式会社

## ニホンウナギ人工種苗の研究開発の現状 —展示及びセミナー開催について—

このたび、第25回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー(8月23～25日 東京ビッグサイト東館)において、ニホンウナギ人工種苗研究開発の現状を紹介する展示及びセミナーを開催します。

また、水産庁委託事業により、(一社)マリノフォーラム21(代表)、(国研)水産研究・教育機構、山田水産(株)からなる共同実施機関は、ニホンウナギ人工種苗生産の実証事業を実施しています。本事業で生産した人工シラスウナギから山田水産(株)で養殖したウナギのかば焼きを、出展ブース来場の方に数量限定ですが、試食していただきますので、ぜひご来場ください。

【背景】現在、ウナギ養殖用の種苗は天然シラスウナギに100%依存しています。国内シラスウナギの採捕量は年変動し、2023年前漁期は不漁のためシラスウナギの価格は過去2番目の250万円/kgと過熱しています。

ニホンウナギ人工種苗の供給については、国の施策として2050年までにニホンウナギの養殖における人工種苗の比率を100%にすることを目標としております。

一方で、ニホンウナギは卵からシラスウナギになるまで300日と長く、どんなエサが最適かなど未解明の部分も残っています。そんな中、2002年に当機構が世界で初めて完全養殖に成功し、本研究の世界ではトップランナーとしてけん引しています。

【研究内容】(国研)水産研究・教育機構、(一社)マリノフォーラム21、山田水産(株)は、水産庁委託事業「ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業」で、ニホンウナギ人工種苗の安定的な生産を目指し、①仔魚の生残率向上、②開発した技術の再現向上、③省力化・省コスト化等の実証にも取り組んでいます。

### 【展示出展内容】

第25回ジャパン・インターナショナル・シーフードショーでは人工種苗の研究成果等についてポスターや生体を展示いたします。

また、ニホンウナギ人工種苗の研究開発の現状を知っていただくため、仔魚用餌料の開発、品種改良に向けた取組及びニホンウナギ人工種苗の量産技術開発とその普及についてセミナーを行います。

本事業では人工シラスウナギの養殖用種苗実用化に向け多くの成果が得られており、事業で生産した人工シラスウナギの一部を山田水産(株)が養殖したところ、天然シラスウナギと遜色がないことも確認できました。今回、シーフードショー出展ブース (Z-57) にて、山田水産が養殖した人工シラスウナギ由来のウナギをかば焼きとして試食提供いたします。

【セミナータイトル】 ウナギ種苗の商業化に向けて (B会場)

日時：令和5年8月24日(木曜日) 12:45~14:45

(申し込み)

[https://seafoodshow-japan.com/tokyo/seminars\\_list/apply](https://seafoodshow-japan.com/tokyo/seminars_list/apply)

【人工シラスウナギから養殖したウナギかば焼き試食】(出展ブース Z-57)

試食は1日200食。スケジュールは11時50食、13時50食、15時100食  
試食後にアンケートを行っていただきます。

試食用の整理券を出展ブース (Z-57) にて配布します。

本件照会先：

【セミナーに関する件】

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

本部 経営企画部 広報課 荒井大介

TEL：045-277-0136

【ニホンウナギ人工種苗研究開発に関する件】

一般社団法人マリノフォーラム21 (代表機関) 岸 真二郎

TEL:03-6280-2792

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

水産技術研究所 シラスウナギ生産部 風藤行紀

TEL：0558-65-1185